

## 4月30日（日）春の自然観察会

川瀬 美幸



たくさんの花々が咲き、森がキラキラとした新緑に包まれる時期の自然観察会。当日は最高のお天気で参加者も多く総勢65名（うち子ども7名）とスタッフ13名での観察会になりました。

参加者多数の為、講師の柄澤さんのグループの他に今回は植物専門で観察する中庭さんのグループに分かれて実施しました。柄澤さんグループでは最初に空中をパトロール飛行するキムネクマバチを捕まえ観察。参加者の皆さんは刺されないかと心配そうでしたがこのクマバチは雄。説明で雄は針が無いこと

がわかると、大きなフサフサしたからだを撫でたり手に持ってみる参加者さんもいました。

園路には立派なキンランがたくさん咲いていて、ランの仲間は樹木と共生する菌類から栄養を得ている話を聞きました。キンランだけを採って持ち帰ってみても生育しない、森の生きもの達は複雑な繋がりをもって生きている事がわかりました。



園路を進むと池のほとりの木に掛けられた巣箱から、なんとアオダイショウが顔を出している！

参加者からは「中の雛を食べてお腹が膨らんで出られなくなった？」、「人が来て出るに出られなくなった？」などなど憶測が飛び交いました。（午後近くを通ったら地上を這うアオダイショウにばったり遭遇しました。やっと帰れたのかな？）

植物では、端午の節句に菖蒲湯として用いるショウブや、葉っぱの状態のキツネノカミソリ（花の時期に葉っぱは無い）、ズミの花やジュウニヒトエの花、ウラシマソウの花（仏炎苞）などを観察しました。

また、エノキの幼木におおきな緑色のイモムシを子どもが発見！よく観察すると背中突起は4列あり、外来種のチョウ、アカボシゴマダラの幼虫である事がわかりました（ゴマダラチョウは突起が3列）。最近是在来のゴマダラチョウに遭遇する機会がぐっと減ってきているように思います。身近な自然でも私たちの知らない間に生きものが入れ替わっていると思うとなんだか怖いですね。今後とも外来種は気をつけて見ていかないといけないと感じました。

今回は、たくさんの生きもの達を心地よい森の木漏れ日の中で見ることができ、最高の観察日和になりました。これから夏に向けて森が変化していく様子をまたぜひ観察しに来てください。



柄澤講師の説明に興味津々の子どもたち